

ふるさと歴史アラカルト

中津居館跡③ 中津居館跡と弘中氏

中津居館跡が14世紀初め頃には有力者の居館として機能していた事が、発掘調査によって分かってきました。この時代、周防を治めていたのが守護大名大内氏であり、その家臣である弘中氏が岩国を拠点としていたことから、弘中氏（あるいは弘中氏と大内氏の両者）が中津居館跡の築造主体である可能性が高いと考えられています。

弘中氏は源平合戦の後、平家方の岩国氏の衰退に伴って岩国地方に勢力を拡大したとみられ、始め清縄氏、後に弘中氏を名乗りました。弘中氏（清縄氏）に関する最も古い記録は白崎八幡宮に伝わる棟札の記述で、これによると建長2（1250）年、琵琶頸（現在の山手町二丁目付近）に白崎八幡宮の前身となる小社を建立し、貞和4（1348）年、弘中兼胤が現在地に社殿を移し、その後も弘中氏が白崎八幡宮の歴代宮司を務め、伽藍を整備しました。15世紀初頭の、大内氏の氏寺興隆寺（山口市）の「供養勧進帳」および

び「一切経勧進帳」の大口寄進者には、弘中氏一族が複数名記載されており、大内氏家中でも、有力家臣として地位を確立していた事がうかがえます。16世紀の当主弘中隆兼は安芸の守護代に任じられ、智勇を備えた人物として知られましたが、天文24（1555）年、厳島の合戦で毛利元就の軍に敗れて、隆兼は自刃しました。これにより、約300年間続いた弘中氏による岩国統治の時代が終わりを告げました。

中世の岩国や弘中氏については史料が少ないため、いまだ不明な事も多く、更なる研究の進展が待たれます。そのような中で、中津居館跡は、規模や保存状態の良さから、全国的にも評価の高い遺跡であるだけでなく、岩国の中世の歴史を考える上で、欠く事の出来ない重要な遺跡ということが出来ます。



▶ 白崎八幡宮に伝わる棟札

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※3月15日号では一括出土銭の推定埋蔵枚数を五貫文（5千枚の塊）が4組確認できることから推定2〜3万枚と紹介しましたが、最新の情報では、十貫文（1万枚の塊）および八貫文（8千枚の塊）が計4組確認できることから、推定4〜5万枚ということがわかっていきます。

5月8日（日）まで、岩国徴古館で「中津居館跡発掘調査報告展」を開催中です

岩国市 人口・世帯

人口 139,671 人【前月比 - 143人】 男性 66,176 人 女性 73,495 人

世帯 66,288 世帯【前月比 - 62世帯】 ※外国人人口を含む（平成28年3月1日現在）

交通事故発生件数 2月分事故件数 35件(67件) 死者数 0人(0人) 傷者数 38人(71人)

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337